

○和食のご飯屋（２月２１日）

食事をしている真央と優衣

真央：

「ねえ、優衣」

「この間、優衣の彼氏の写真見せて貰ったわよね」

「実は、私も早水さんと付き合ってるの」

「付き合い始めたのも優衣と同じ頃よ」

「彼から貰ったブレスレットとバッグ」

「同じよね」

優衣：

「それって、私と真央の二股って事？」

真央：

「いい、ちゃんと聞いて」

「二股どころか、私達は彼にもてあそばれたのよ」

「彼は、専務の娘と結婚するの」

「結納も済ませたそうよ」

優衣：

「酷〜い」

「彼からは、そんなの一言も聞いていないわ」

真央：

「私もよ」

優衣：

「私達を何だと思ってるのよ」

「私達はもてあそばれたのね」

「彼の事、絶対に許さないわ」

真央：

「私も絶対に許さないわ」

「それでね、優衣にも協力して貰って、彼に復習しようと思うの」

優衣：

「いいわ、協力するわ」

「彼の事懲らしめてあげましょうよ」

真央：

「ありがとう、優衣」

「それでね、私が立てたプランはこうよ」

「これを見て」

「前に、鉄道に乗るのが趣味って話した事あったわよね」

「これは寝台特急の、サンライズエクスプレスという列車の資料よ」

「この、東京発・出雲市行き、サンライズ出雲のサンライズツインのチケットが取れたの」

「プラチナチケットと言ってなかなか取れないのよ」

「私もやっと取れたの」

「ねえ見て、これがこのお部屋よ」

「日にちは、3月13日の金曜日」

「ここで、彼へのお仕置きをしようと思うの」

「〔サンライズツインのベッドで、大和と一夜を過ごしたいの〕〔出雲に旅行しよう〕〔大和と燃えたいわ〕と言ったら、彼、直ぐに喜んでOKの返事を出したわ」

「なかなか味わえない寝台車のベッドで、エッチが出来るとあって、彼、目を輝かせていたわ」

「このサンライズにした理由は、他にもあるの」

「まあ、彼へのお別れの記念に、と言うのもあるけど」

「このサンライズは、東京駅を21時50分に出発して、横浜、熱海、沼津、富士、静岡、浜松の順に停車して行くわ」

「浜松を1時12分に発車した後は、姫路5時25分着迄停まらないのよ」

「つまりその間、4時間13分はこの列車から降りられないの」

「この間は逃げる事が出来ないのよ」

「この時間に彼にお仕置きをするの」

優衣：

「真央、大体は分かったわ」

「それで、当日私はどうすればいいの？」

真央：

「それじゃあ、当日の行動について説明するわね」

「よく聞いて」

「昼は、彼とデートしてほしいの」

「その後、東京駅 9 番線ホームで、サンライズが発車する直前までいて、彼を見送ってほしいの」

「優衣が、東京にいると言う、印象を付けるの」

「見送った後、新幹線 1 4 番線ホームに行って、2 2 時 1 2 分発の静岡行き、こだま 8 1 3 号に乗るの」